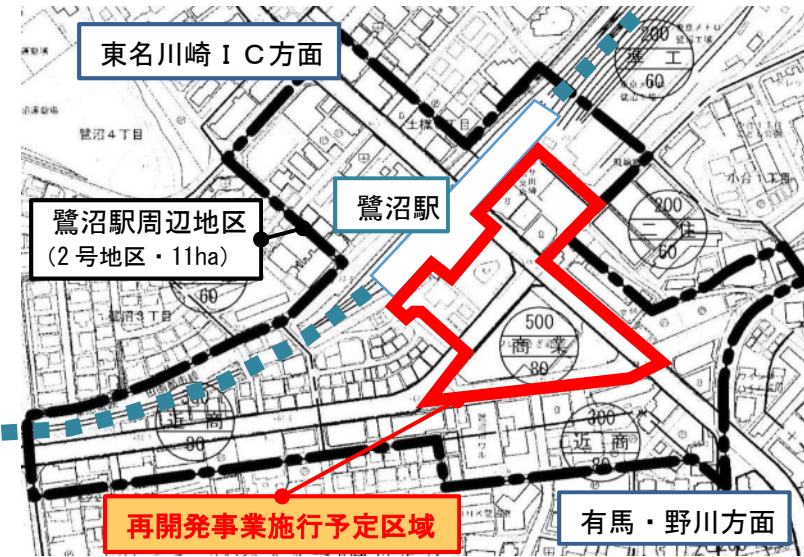


1 現状と課題

- 鷺沼駅周辺の地域は、昭和40年代に東急田園都市線の延伸を契機として市街化が進んで以来、大きな施設・機能の更新等が無いまま40～50年が経過しており、今後、高齢化や建物の老朽化が同時に進行することが想定されている。
- 山坂が多く、路線バスによる駅へのアクセスが多い地域であるものの、交通広場の機能不足などにより、バス需要に応える増便等の対応が難しいなどの課題がある。



2 鷺沼駅周辺の再編整備

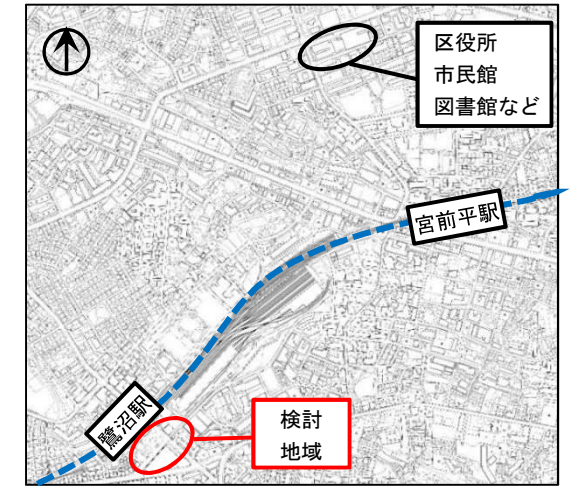
- 鷺沼駅周辺では、平成27年6月の東急電鉄(株)との包括連携協定を契機に、連携した取組として、駅前広場の再編整備等にあわせ、多様な都市機能の集積と、交通結節機能の強化に向けた取組を推進することとしている。
- また、鷺沼・宮前平駅周辺地区は川崎市総合計画において地域生活拠点に位置付けられており、また、平成28年度に見直しを行った「都市再開発の方針」では、その一部区域について、「特に一体的かつ総合的に市街地の再開発を促進すべき相当規模の地区」である「2号地区」として都市計画決定するとともに、市として鷺沼駅周辺土地利用方針(案)を作成し、これを基に検討を進めている(別紙「鷺沼駅周辺再編整備に向けた検討状況」参照)。
- こうした中、民間における再開発の機運が高まっており、再開発事業施行予定区域内の権利者5名で構成される「再開発準備組合(以下「準備組合」)」が平成29年8月16日に設立された。
- 準備組合では、平成31年度都市計画決定、平成33年度工事着手を目指して事業計画の検討が進められており、平成29年12月、同準備組合から後述する議会各会派や市民等からの意見・要望に関して、市の速やかな検討が要請されている。

3 議会各会派や市民等からの意見・要望

- 平成29年8月28日には、鷺沼駅周辺の町内会・商店会長等で構成される「再開発推進協議会(以下「協議会」)」が設立され、再編整備に期待する機能やまちづくりについての議論が行われている。
- また、再編整備の動きが活発化する中、以下のとおり、公共機能に関する様々な意見・要望が寄せられている。
 - 平成29年9月 市全町内会連合会：区役所・市民館・図書館の一部機能の移転を求める要望書
 - 11月 協議会：区役所・市民館・図書館の移転について求める要望書
 - 〃 宮前区議団：平成30年度予算への緊急要望事項として区役所機能等の体制整備を求める要望
 - 12月 市議会：3会派から公共機能移転に関する代表質問

4 宮前区の子な公共施設の状況

- 区役所、市民館・図書館、消防署、警察署は、それぞれ隣接して宮前平に立地しているが、最寄り駅の宮前平駅からの急坂をはじめ、アクセスに不便であるという地元意見が以前から寄せられている。
- 区役所は、昭和57年の供用開始以来35年が経過し、区役所の中では、麻生区役所と並んで最も古い庁舎となっている。
- 市民館・図書館は、昭和60年の開館以来32年が経過し、施設や設備の老朽化が進んでいる。
- こうした市の施設については、資産マネジメントカルテに基づく長寿命化に配慮した取組を実施しているところであるが、現地における施設更新の際は仮設庁舎建設用地が必要となるなど、将来的には様々な技術的な課題が見込まれている。



5 基本的な考え方

本市においては、民間活力を活かした交通利便性の高い駅周辺のまちづくりを進めており、議会各会派や市民等から公共機能に関する様々な要望もいただいていることから、準備組合が進めている再開発事業の計画検討の中で議論が可能となるよう、平成30年度内の基本方針策定を目指し、宮前区内の公共機能について、次のとおり検討を行う。

- 区役所・市民館・図書館等の移転可能性を含め、鷺沼駅周辺再編整備に導入する公共機能について検討する。
- 公共機能の検討を踏まえ、公共交通による駅アクセスの向上について検討する。

6 検討の進め方

- 公募市民等によるワークショップやフォーラムの開催、無作為抽出による区民アンケート、関係団体等への説明・ヒアリングなど、多角的な意見聴取を実施しながら検討を進める。
- 庁内では、副市長を座長とする「鷺沼駅周辺再編整備公共機能検討会議」を設置し、市民文化局・まちづくり局・宮前区役所・教育委員会事務局を中心に、各局が連携しながら組織横断的な検討を進める。

7 今後のスケジュール

平成30年2月	関係団体等への説明・ヒアリング開始	平成31年2月	公共機能に関する基本方針案の公表
5月～	ワークショップ参加者公募開始	2月	パブリックコメントの実施
	ワークショップの開催(3～4回程度)	3月	基本方針の公表
	無作為抽出アンケートの実施		
	フォーラムの実施(時期未定)		

鷺沼・宮前平駅周辺地区は、本市総合計画において「地域生活拠点」の1つとして位置づけられ、「鷺沼駅周辺を中心に（中略）多様な都市機能の集積及び交通結節機能の強化に向けた取組を推進」することとしている。今回の民間事業者による再開発は、この位置付けに即した取組である。

そこで市では、この機会を捉え、宮前区全体の利便性向上に寄与する取組を推進できるよう、平成30年2月に「鷺沼駅周辺再編整備に伴う公共機能の検討に関する考え方（以下「検討の考え方」という。）」を公表し、関係団体等への説明・ヒアリングやまちづくりフォーラム、意見交換会、アンケート調査など、多角的な区民意見の把握に取り組み、現区役所等用地のあり方なども含め、鷺沼駅周辺再編整備に伴う公共機能に関する検討を進めている。

また、現在の建物を継続利用した場合と鷺沼駅前に移転した場合の必要概算経費の算出などについては、専門業者への委託による基礎調査を実施するとともに、並行して、公共交通による駅アクセスについて、現状や課題、検討の方向性等について整理を行っている。

このたび、第1回まちづくりフォーラムでの区民意見等を踏まえて追加開催する中間報告フォーラムに合わせ、それぞれの取組について、これまでの検討状況を報告する。

なお、今回の取組では、区役所・市民館・図書館などの移転可能性も含め、鷺沼駅前に望まれる公共機能について検討することから、「宮前区のミライを考える さぎぬまプロジェクト」という名称を付け、区民への周知を図っている。

1 関係団体等説明・ヒアリング、まちづくりフォーラム、意見交換会

(1) 関係団体等説明・ヒアリング

宮前区全町内・自治会連合会や区社会福祉協議会をはじめ、区役所の日常業務等で関わりのある団体等を対象として、2月に公表した「検討の考え方」の周知を図り、その段階での率直な意見・質問を把握した。今後も、検討の進捗状況に応じて実施する。

ア 実施概要

- ・期間…平成30年2月14日（水）～3月26日（月）
- ・団体…35団体（401人）、1団体あたり40分程度

イ 主な意見・質問

鷺沼駅に近い地区を中心に、移転に前向きな意見や再編整備への期待感がある一方で、向丘地区や現在の区役所周辺の住民からは配慮を求める意見が出るなど、地区により意見に差異が生じている。

【前向きな意見・期待感】

- ・現在の区役所は車で行くには便利だが、坂の上であり大変なので、駅から近いところに移転するのは賛成
- ・鷺沼に移転して宮前区全体が明るくなり、宮前・向丘両地区にとって便利さが感じられるようになるとうい
- ・分区分した宮前区には核がなく、鷺沼に集中させて核にしようという方向には賛成

【配慮を求める意見・質問】

- ・向丘地区が極めて不便になるため、向丘出張所の機能の充実や、鷺沼へのバス便の確保が必要
- ・駅前周辺道路は現状でも混雑しており、道路整備や駐車場確保が必要
- ・区役所と市民館・図書館の移転は分けて考えるなど、一部機能の移転も考えられるのではないかと

(2) 第1回まちづくりフォーラム

今回の取組の概要や検討の進め方などについて説明し、質疑応答、意見交換を行った。

ア 実施概要

- ・日時…平成30年5月27日（日）13:30～16:00
- ・会場…JAセレサ川崎本店セレサホール飛翔
- ・来場者…約200人



イ 主な意見・質問

- ・今日初めて詳細な話を聞いた。情報は開示されているのか
- ・鷺沼の再開発自体は結構だが、問題は区役所等の移転の話。資産価値が下落したら補償するのか
- ・区役所や市民館・図書館が移転しなければならないという理由があるのか
- ・現在の区役所等の建物はバリアフリーの観点から問題がたくさんある。皆さんにこうしたことも知ってほしい
- ・できれば大人の意見だけでなく、子どもの意見も聞いてほしい
- ・再開発によってバス路線がどのようになるかということをきちんと説明するべきではないか
- ・1年間という限られた検討期間が問題である。もっとじっくり考えてほしい
- ・今日のフォーラムのように市民参加で進めてほしい

(3) 意見交換会（ワークショップ）

4回連続のワークショップによる創造的な議論に取り組み、鷺沼駅前に望まれる公共機能をはじめとした検討を深めていく。50人の定員に対して109人の応募があり、地域バランスや年齢、性別を考慮して抽選により参加者を決定した。

ア 参加者の構成

・13歳～87歳の区民に参加していただいている。

年齢	10～20代		30～40代		50～60代		70代以上		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人数	3	3	9	7	9	4	11	4	32 (64%)	18 (36%)
小計	6 (12%)		16 (32%)		13 (26%)		15 (30%)		50	

イ 実施概要

【第1回】6月9日（土）13:30～16:30 宮前区役所4階大会議室

・テーマ＜共有する＞…このプロジェクトに関する期待や関心・思い・懸念することなどについて意見を自由に出し合い、共有する。

・参加者全員が意見を出し、共有するため、少人数のグループに分かれてワークショップ形式で意見交換を行った。

【第2回】7月21日（土）13:30～16:45 宮前区役所4階大会議室

・テーマ＜意見を深める①＞…第1回で出された意見を4つのテーマに分けて意見交換し、鷺沼駅周辺や宮前区のミライを探りながら意見を深めていく。

ウ 第2回の4テーマごとの主な意見

① 鷺沼駅周辺のまちづくりと公共機能

- ・宮前区のブランドづくり / ・自律的に課題を解決できるまちに / ・気軽に集まり交流できる場所
- ・駅から近いところに区役所・市民館・図書館を整備してほしい / ・ITの活用で行政機能のワンストップ化
- ・子ども子育て機能の充実 / ・ワーキングスペース・シェアオフィスで昼間人口増 / ・大・小ホールと練習・リハ室

② 交通・アクセス

- ・路線バスネットワークの充実 / ・バスロータリーの改善・立体的利用 / ・駅前の信号待ち時間の改善

③ 宮前区全体のまちづくり

- ・チャンスを活かして鷺沼を核に / ・コンパクトシティの考え方が必要 / ・歩いて行ける身近な場所に拠点を
- ・AI・ITの活用で集わなくても相談できるように / ・宮前区の歴史を発信 / ・跡地は災害時の緊急拠点に
- ・跡地は交流スペースに / ・鷺沼に全ての機能を移転する必要はない（一部機能のサテライト化）

④ 検討の進め方

- ・多様な意見を集めていく（外部委員、専門家、住民代表、子ども） / ・行政内部の検討プロセスの公開を
- ・慎重に検討 / ・分庁舎という選択 / ・必要なものだけ移転 / ・事業者のビジョンを聞きたい

*フォーラムの実施結果や意見交換会の資料などは全て市ホームページで公開中

さぎぬまプロジェクト

2 無作為抽出による区民意識アンケート

(1) 実施概要

鷺沼駅前の再開発に伴い、宮前区の今後のまちづくりに向けた区民の率直な意識を統計的に把握することにより、鷺沼駅周辺再編整備に伴う宮前区の今後のまちづくりについての検討の参考とする。

- ア 調査対象** 宮前区内在住の18歳以上の男女個人2,000人（外国人を含む）
- イ 有効回収数** 1,057件（52.85%）
- ウ 標本抽出方法** 住民基本台帳に基づく無作為抽出
- エ 調査期間** 平成30年6月7日（木）～6月25日（月）
- オ 調査方法** 郵送法（郵送配布、郵送回収*） *インターネットでの回答も可能とする。

(2) アンケートの構成

今後、民間事業者が進める鷺沼駅前の再開発の概要や市の取組について、回答者がアンケートに回答する前に概要等をつかめるよう、説明を読んでから、各設問に答える構成とした。（全設問数：39問）

ア 回答者への概要説明

① 鷺沼駅前の再開発事業について

再開発が民間事業者による実施であること、再開発が予定されている区域、機能配置のイメージ、主なスケジュールなどについて、地図等を用いて説明

② 「宮前区のミライを考える さぎぬまプロジェクト」について

このアンケートも市が進めている本プロジェクトの一環であり、フォーラムや意見交換会などを開催して総合的に検討を進めることや、市の方針決定の時期などを説明

イ 主な設問項目

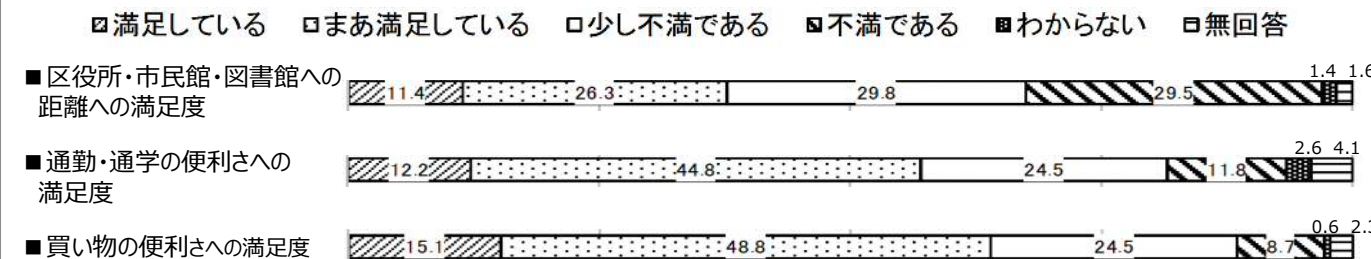
- ① 宮前区について日頃感じていること
- ② 現在の区役所・市民館・図書館の利用状況等
- ③ 鷺沼前で民間事業者による再開発事業について
- ④ 区民意見を踏まえた今後の鷺沼駅周辺のまちづくり
- ⑤ その他



アンケート（イメージ）

(3) 調査結果 主な設問に対する回答は、次のとおりとなっている。（抜粋）

問2 宮前区の生活環境に対する満足度（5つの選択肢から1つ）



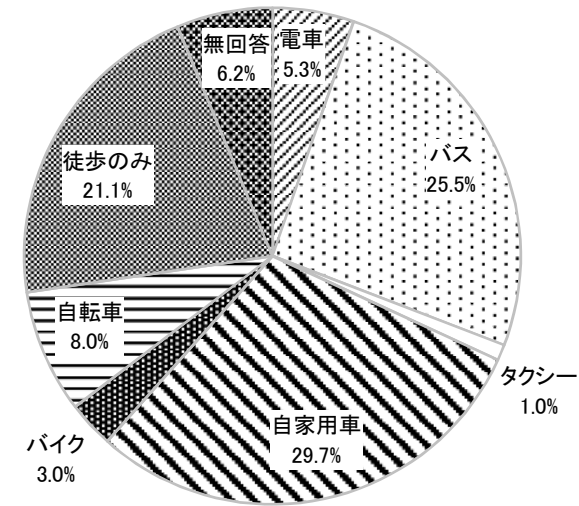
問6 宮前平にある公共施設(宮前区役所・市民館・図書館)に行く目的について（あてはまるものを3つまで）

- 〔上位項目〕
- ・住民票や印鑑登録証明書などの証明書を発行するとき…73.4%
- ・転入・転出や戸籍・印鑑登録などの手続きをするとき…63.0%
- ・各種イベントやコンサート、発表会などに行くとき…30.5%
- ・本や雑誌を読んだり、借りたりしたいとき…27.4%
- ・子どもに関する各種手続き等の行政サービスを受けるとき…22.7%
- ・ほとんど利用していない…14.2%

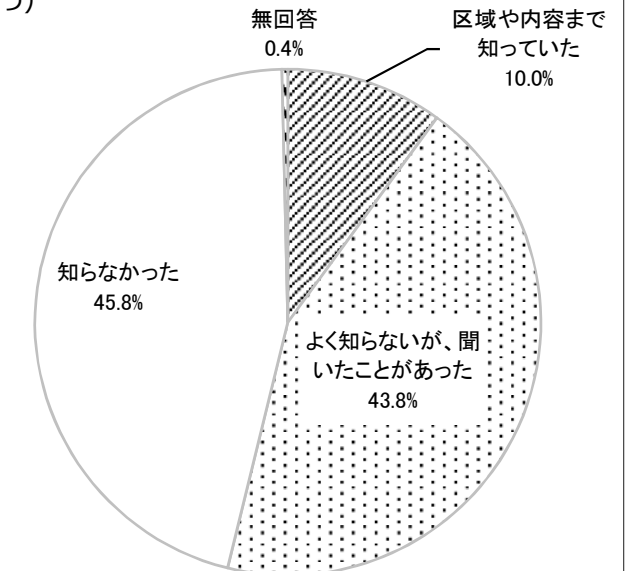
問7 宮前平にある公共施設を「ほとんど利用していない」理由（あてはまるものを3つまで）

- 〔上位項目〕
- ・利用するには行きにくい場所にあるから…55.3%
- ・行政サービスコーナーやコンビニでの証明書発行など、宮前平の公共施設に行かなくても用事が済んだから…23.3%
- ・手続きや会議等で行く必要がなかったから…20.7%
- ・利用する時間的な余裕がないから…20.7%

問8 宮前平にある公共施設(宮前区役所・市民館・図書館)に行くときの主な交通手段（最もあてはまるもの1つ）



問9 鷺沼駅前で民間事業者による再開発計画が検討されていることの認知度（最もあてはまるもの1つ）



問10 鷺沼駅前の再開発への期待について、これまでに寄せられた意見に対し、どう思うか（あてはまるものすべて）

- ・区内のどの地域に住む人にとっても交通の便利さが感じられるようになる…55.3%
- ・買い物が便利なまちになってほしい…48.2%
- ・駅前に行政、金融、オフィス、ショッピング、高齢者の住むマンション、子育て関係の施設などが集まる完結型のまちが望ましい…45.5%
- ・利用者目線のバリアフリーなど誰もが住みやすいまちづくりを進めてほしい…36.8%
- ・鷺沼駅前を文化的な拠点にしたい…20.1%
- ・その他…7.4%
- ・特にな…16.4%

問11 鷺沼駅前の再開発への期待に対し、「特にな」と回答した理由（最もあてはまるもの1つ）

- ・鷺沼駅周辺にはあまり行かないから…47.4%
- ・自分にとって便利にならないから…32.9%
- ・今後のまちづくりについてよくわからないから…8.1%
- ・関心がないから…1.7%
- ・その他…4.6%

問12 鷺沼駅前にあってほしい市民サービスや公共的な機能について（あてはまるものすべて）

- ・住民票や印鑑登録証明書などの発行…49.4%
- ・転入・転出や戸籍・印鑑登録などの手続き…43.7%
- ・高齢者や障がい者への福祉サービス…34.3%
- ・保険、福祉などに関する各種手続き・相談…33.9%
- ・読書・調べもの、本を借りること…31.2%
- ・子どもや子育てへの支援…25.3%
- ・音楽などイベント、講座、講演会などの開催・参加…25.3%
- ・多様な世代やライフスタイルの人たちの交流…19.6%
- ・地域の活動やサークル活動への支援…13.3%
- ・その他…4.3%
- ・特にな…21.7%

問13 鷺沼駅前にあってほしい空間について、これまでに寄せられた意見に対し、どう思うか（あてはまるものを3つまで）

- ・緑を感じることができる空間…49.0%
- ・自由に飲食や休憩ができる空間…40.2%
- ・災害発生時の避難場所としても使える空間…36.0%
- ・高齢者や障がい者も安全・安心に利用できる空間…34.4%
- ・待ち合わせや談話ができる空間…28.2%
- ・子どもを遊ばせることができる空間…21.3%
- ・農産物や作品販売などのバザーができる空間…20.2%
- ・お祭りやイベントができる空間…20.1%
- ・その他…4.7%

問14 今後、鷺沼駅周辺のまちづくりを進めていくうえで考慮してほしいこととして、これまでに寄せられた意見に対し、どう思うか（あてはまるものを3つまで）

- ・鷺沼駅周辺の駐車・駐輪スペースの整備など、交通環境に配慮すること…60.2%
- ・区内各所から鷺沼駅に行きやすくすること…45.6%
- ・仮に区役所・市民館・図書館を移転するなら、現在の区役所・市民館・図書館用地の活用方法を検討すること…35.1%
- ・将来の人口や生活環境、情報通信技術等の状況変化を見据えて検討すること…32.5%
- ・市としての方針案を決める前に、市民の意見を聞く機会を十分設けること…28.0%
- ・区役所・市民館・図書館を移転する場合としない場合の費用対効果を検討すること…25.0%
- ・向丘出張所の機能について検討すること…9.4%
- ・その他…3.5%

3 鷺沼駅周辺再編整備に伴う公共機能検討のための基礎調査

(1) 目的

供用開始後30数年が経過している宮前区役所及び市民館・図書館の鷺沼駅周辺への移転可能性を検討するため、建物の現状確認や必要規模の検討など、検討に必要な調査を行うことを目的とする。

(2) 調査内容

現在の建物の劣化状況を調査し、長寿命化した場合と鷺沼駅周辺再編整備に伴い移転することとした場合の事業の効率性の比較検討を行うとともに、他都市の類似事例を調査し、移転することとした場合の効果的な機能・空間構成について検討する。今回は、以下の調査項目のうち「ア 既存建物調査」の作業状況を報告する。

ア 既存建物調査

①過去に実施した劣化調査・診断報告書や保守点検報告書、施設管理者へのヒアリング、目視により、建物・設備の劣化状況を調査する（「学校施設の長寿命化の手引き」（文部科学省）等による）。

※今回の調査では、構造躯体の健全度を診断するコンクリート強度、中性化試験等は行わない。

②建物を資産マネジメントカルテに基づき築60年まで使用するための修繕内容を確認し、長寿命化整備方針を検討する。

③下記⑤比較検討のため、修繕、建替え等にかかる概算費用を算出する（長寿命化「平成17年度版建築物のライフサイクルコスト」（国土交通省）等による）。

④長寿命化により建物を活用した場合に考えられる課題を整理する。

⑤長寿命化ののち現地建替える場合と、鷺沼駅周辺再編整備に伴い移転することとした場合の事業効率性の比較検討を行う。

イ 事例調査

庁舎、市民館、図書館、その他類似する公共施設の再整備の際に、新たな機能・用途・空間を付加または従来の機能を削除した他都市の事例を調査し、必要に応じてヒアリングを行い、特徴をまとめる。

ウ 機能・空間構成の検討

イの事例調査結果及び意見交換会やまちづくりフォーラムでの意見、区民アンケート結果等を参考に、再開発が進む鷺沼駅周辺エリアの立地ならではの効果的な機能・空間構成について検討する。

(3) 既存建物調査の作業状況

【健全度評価】 (2)ア① (実施済み)

・長寿命化を図る部位を、屋根・屋上、外壁、内部仕上げ、電気設備、機械設備の5つに分類し、さらに詳細な部位ごとに劣化状況を調査した。詳細部位の劣化状況を総合的に評価し、5つの部位ごとに、健全度をA～Dの4段階で示している。

部位 (大分類)	区役所	市民館・図書館	健全度説明
屋上・屋根	C	D	A：概ね良好 B：部分的に劣化 C：広範囲に劣化 D：早急に対応する必要がある ※C、Dは修繕、改修が必要
外壁	C	C	
内部仕上げ	C	C	
電気設備	C	D	
機械設備	C	C	

・また、詳細部位については、「早急（概ね5年以内）に修繕が必要」とされた箇所が区役所、市民館・図書館ともに散見されたが、「緊急（概ね2年以内）に修繕が必要」とされた箇所は、市民館・図書館のみにあった（外壁・内部仕上げの一部箇所）。

【長寿命化方針の検討・概算費用の算出】 (2)ア②③ (検討・作業中)

・劣化調査をもとに、建物を築60年まで使用することした場合に必要な詳細部位修繕、大規模修繕の、年度ごとの仮修繕計画について検討中である。

・今後、仮修繕計画を基に、費用の算出を行う。

【課題の整理・事業効率性の比較】 (2)ア④⑤ (検討・作業中)

・次のa、bについて課題を整理し、事業効率性の比較に向けて作業中である。

a 長寿命化（築60年まで）し、現地で建て替える場合

b 鷺沼駅周辺再編整備に伴い移転する場合

・コスト算出をする上での様々な算定条件を整理し、比較検討に必要な情報を抽出する。その結果を踏まえ、他の調査結果も含めた比較検討を今後行う。

		a 長寿命化し、 現地で建て替える場合 (現位置)	b 鷺沼駅周辺再編整備に 伴い移転する場合 (鷺沼駅周辺)
立地条件	位置	・区域のほぼ中心	・区域のやや南寄り
	区内からのアクセス (公共交通)	・各駅停車の停車駅から徒歩10分(坂道) ・区役所にアクセスするバスは、平日約240本/日(約140本/日)(カッコ内は宮前平駅発の内数)	・急行の停車駅から至近 ・駅にアクセスするバスは、平日約550本/日 バスパースの増加により、路線バスネットワークの充実が図られる。
	地形、災害想定	・丘陵地 ・液状化対象外、浸水可能性なし、土砂災害危険区域外	同左
	周辺の土地利用 (公共施設・商業・業務等)	・消防署、警察署が隣接	・金融機関等、商業施設が集積
コスト ※条件設定により変動	現施設の仮修繕計画に基づく修繕費	・算定のための条件整理中 ※各施設築60年までの仮修繕計画を立案の上、算出する。	・算定のための条件整理中 ※移転時期について調整し、移転までの仮修繕計画を立案の上、算出する。
	新施設の想定整備費 ※現施設と同面積とし、解体費は除く	・約110～120億円(条件等精査中) ※区役所の仮設庁舎への移転を想定した経費(用地、建物、移転費用)を含む。	・約125～135億円(条件等精査中) ※他事例を参考とした現時点の想定費用 ※市街地再開発事業に伴う市民館・図書館の床取得費に国庫補助金控除後の費用を記載
	新施設の想定修繕費	・算定のための条件整理中 ※新施設の修繕内容や算定期間等を想定し、算出する。	・算定のための条件整理中 ※新施設の修繕内容や算定期間等を想定し、算出する。
	その他	—	・現区役所(第2駐車場含む)、市民館・図書館用地(約11,000㎡)の資産活用が可能である。
維持管理・運営	建物整備時の機能・サービス	・通常の整備方法では少なくとも区役所の仮移転が必要となり、その位置や建物構造などによっては、一定期間区民の利用に支障が出ることが考えられる。	・期間を空けることなく再開発ビルに必要な機能・床面積を確保することが可能である。
	施設の維持管理	・市の方針に基づく維持保全が可能である。	・他の施設と合築になるため、管理組合の一員として建物を適切に維持していく必要があり、自由度は低い。
	利用のしやすさ、使い勝手	・大規模修繕を行っても建物の造りを大幅に変更することはできず、当面(少なくとも約25年間)は、現在の建物を継続利用する。 ・敷地に高低差があり、バリアフリー対応に課題がある。	・他の施設と合築になるため、一定の制約はあるものの、区民意見を踏まえ、設計上の工夫により、使い勝手や機能の向上に向けた建物整備が可能である。 ・バリアフリー対応、ユニバーサルデザインが可能である。

4 鷺沼駅周辺再編整備に向けた公共交通による駅アクセスに関する取組 ①

(1) 宮前区内の路線バスの現状

- ・宮前区は、起伏に富んだ地形であるため、特に、鉄道から離れた地域でバス利用が多い。
- ・基盤整備状況等により接続する鉄道駅が異なり、通勤・通学利用の朝・夕時間帯を中心に、野川柿生線沿線は溝の口駅、尻手黒川線沿線は宮前平駅、東側は鷺沼駅への接続となっており、駅への接続路線は、時間当たりの路線本数も多い。
- ・また、小田急線沿線へのアクセスは、宮前平駅からは見られるが、鷺沼駅からは見られない。



(2) 鷺沼駅発の交通アクセスの現状と課題

- ・山坂が多く、路線バスによる駅へのアクセスが多い地域であるものの、バスバースが4バースしか配置されていないことなど、交通広場の機能不足などにより、バス需要に応える増便等の対応が難しいなどの課題がある。
(川崎市内の主要駅における1バース当たりのバス便数は最大(総数：545本、1バース当たり：約136本)となっており、待機場や降車スペースがない)
- ・また、交通広場内で、バス・タクシー・一般車が、混在している。
- ・交通広場の出入口周辺の近傍箇所に3つの信号があるため、交通処理能力が低下している。
- ・駅周辺に付加車線(右左折レーン)が整備されておらず、右左折車両の混入による通過交通の阻害により、交通混雑が発生している。
- ・交通広場は、「都市の広場」としての役割を担っているが、憩える場所や待合スペースなどが交流機能が不足している。



のりば	系統	行先	本数	のりば	系統	行先	本数
①	梶01	梶ヶ谷駅	137本 (15本/時)	③	鷺02	小杉駅・久末、新城駅、井田営業所	145本 (12本/時)
					鷺02	小杉駅前、新城駅前	
②	鷺11	宮崎台駅	114本 (7本/時)	④	鷺01	東山田営業所	149本 (11本/時)
	鷺12	グリーンハイツ中央			鷺03,04	センター北駅、センター南駅	

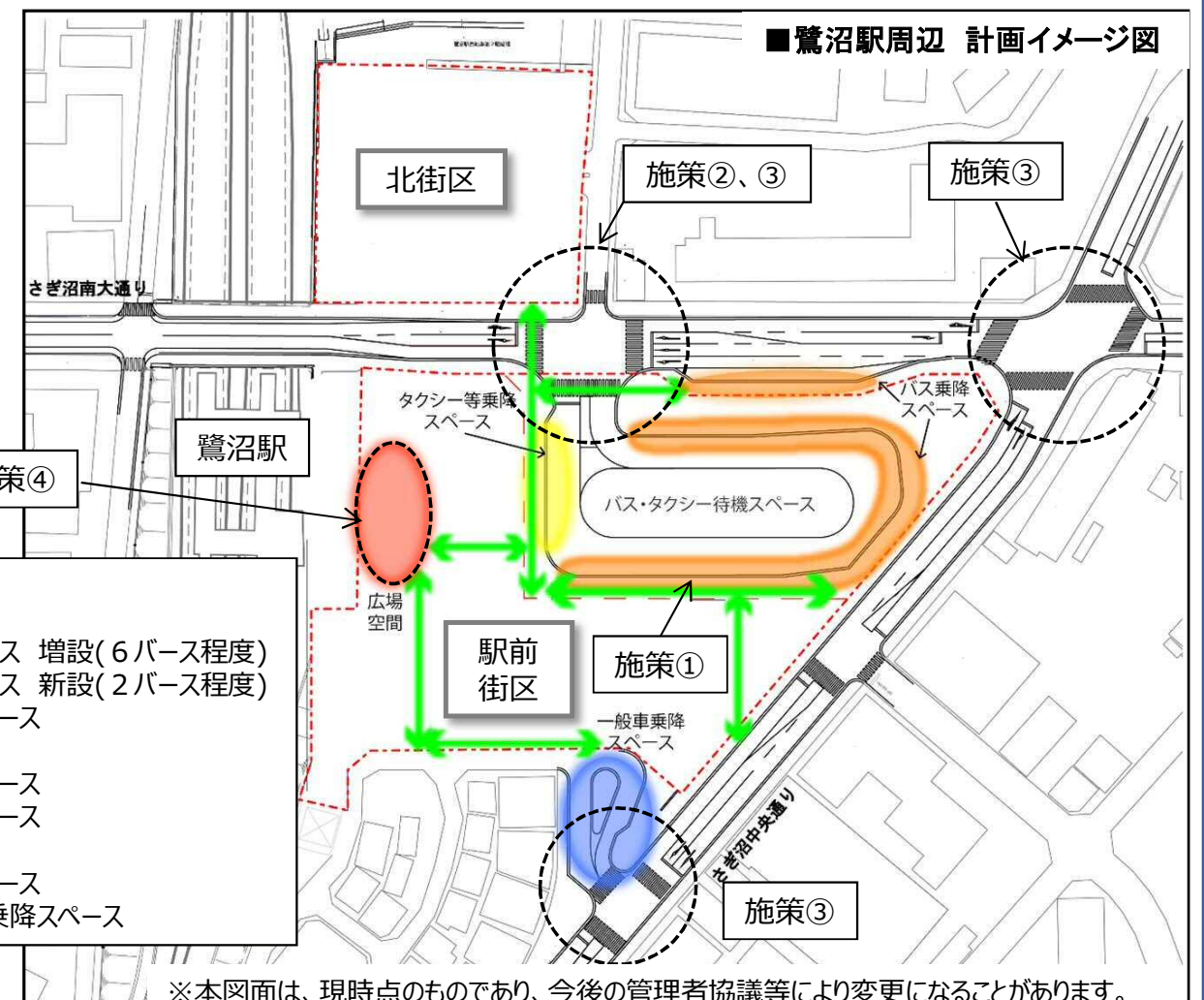
(3) 取組の方向性

- ・【駅周辺交通環境】
民間活力を活かした市街地再開発事業と併せた交通広場の再整備によるバスバース数の増加などの交通広場の拡充や通過交通等に配慮した交通流の改善を図る。
- ・【路線バスネットワーク】
拡充されるバスバース等を活用し、既存路線の再編や新規路線の設置等について、バス事業者と連携し、路線バスネットワークの充実に向けた検討を進める。

(4) 具体的な取組

(4-1) 駅周辺交通環境

- 施策① 交通広場の拡充
・現行の交通広場を運用しながら整備が可能となる位置に、約2倍の交通広場の配置を検討する。
- 施策② 交差点の集約化
・現行の交通広場とフレル鷺沼の間の道路を廃止し、同位置に交通広場の出入口を配置することで、交差点の集約化(3箇所⇒1箇所)を検討する。
- 施策③ 周辺道路への右左折レーンの設置
- 施策④ 交流機能の確保
・人々が憩い、集い、語らう場としての「交流機能」を有した広場の駅至近への配置を検討する。



- 計画諸元
- バス
 - ・乗車バース 増設(6バース程度)
 - ・降車バース 新設(2バース程度)
 - ・待機スペース
 - タクシー
 - ・乗降スペース
 - ・待機スペース
 - 一般車
 - ・乗降スペース
 - ・身障者乗降スペース

※本図面は、現時点のものであり、今後の管理者協議等により変更になることがあります。

4 鷺沼駅周辺再編整備に向けた公共交通による駅アクセスに関する取組 ②

(4-2) 路線バスネットワーク

広場再編整備前の先行的な取組

○「鷺沼駅～聖マリアナ医科大学前」路線新設（平成30年5月公表済）

身近な地域交通における市民の利便性向上と市バスネットワークの充実を図るため、「鷺沼駅」と「聖マリアナ医科大学病院」を結ぶバス路線新設の認可を申請（路線は、市バス・小田急バス・東急バスの3事業者による運行を予定）

■概要

- (1) 運行開始日
平成30年秋頃で調整中
- (2) 運行計画
日中時間帯での運行で
本数は調整中



広場再編整備の機会を捉えた路線バスネットワークの充実に向けた検討

○交通広場の再整備の機会を捉え、小田急線沿線などの拠点駅へ接続するため、既存路線の再編や新規路線の設置等、路線バスネットワークの充実に向け、バス事業者と連携し、検討を進める。

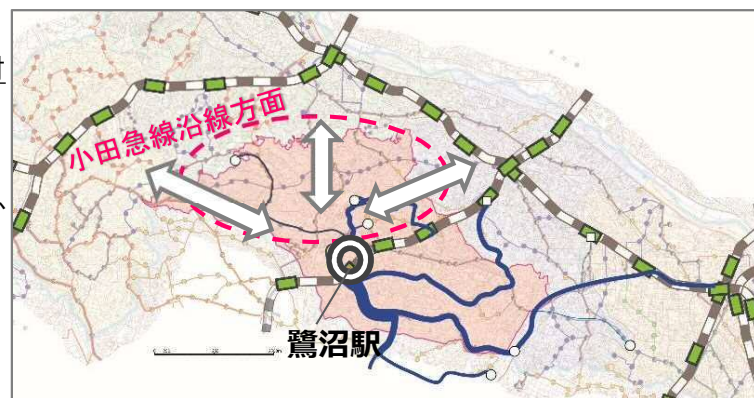
① 運行路線の拡充検討

交通広場の拡充に併せて、運行時間帯の拡大
・「鷺沼駅～聖マリアナ医科大学前」

② 路線バスネットワークの充実に関する路線の検討

バスバスの増加（乗車バス：2バス程度）により、バス発着枠の増が可能となることから、地域需要や地域特性を踏まえつつ、バス事業者と連携し、宮前区全体の発展に資する路線について検討

路線バスネットワークの充実 イメージ図



(5) 検討の進め方

- ・「駅周辺交通環境」については、再開発準備組合や交通管理者などの関係者と協議・調整を行いながら検討を進める。
- ・「路線バスネットワーク」については、バス事業者などと協議・調整を行いながら検討を進める。

5 今後の検討内容・スケジュール

(1) 検討内容

(ア) 鷺沼駅前再開発に望まれる公共機能

再開発により駅前バスターミナルが広がるなど、交通結節点としての機能の向上が見込まれること等を踏まえ、引き続き意見交換会（ワークショップ）による創造的議論やフォーラムによる幅広い参加者との意見交換などを通して、区役所・市民館・図書館の移転可能性も含め、鷺沼駅前に望まれる公共機能について検討する。

(イ) 公共交通による駅アクセス

公共機能の検討を踏まえ、鷺沼駅を中心とした様々な方面からの路線バスネットワークの充実を図るため、拡充されるバスターミナル等を活用し、既存路線の再編や新規路線の設置等について、バス事業者と連携しながら検討する（「4 鷺沼駅周辺再編整備に向けた公共交通による駅アクセスに関する取組」参照）。

(ウ) 現区役所等用地のあり方など*

意見交換会（ワークショップ）等を通じ、仮に「区役所等を移転する」とした場合の、現在の区役所等用地のあり方や、アクセスに関する影響等について検討する。

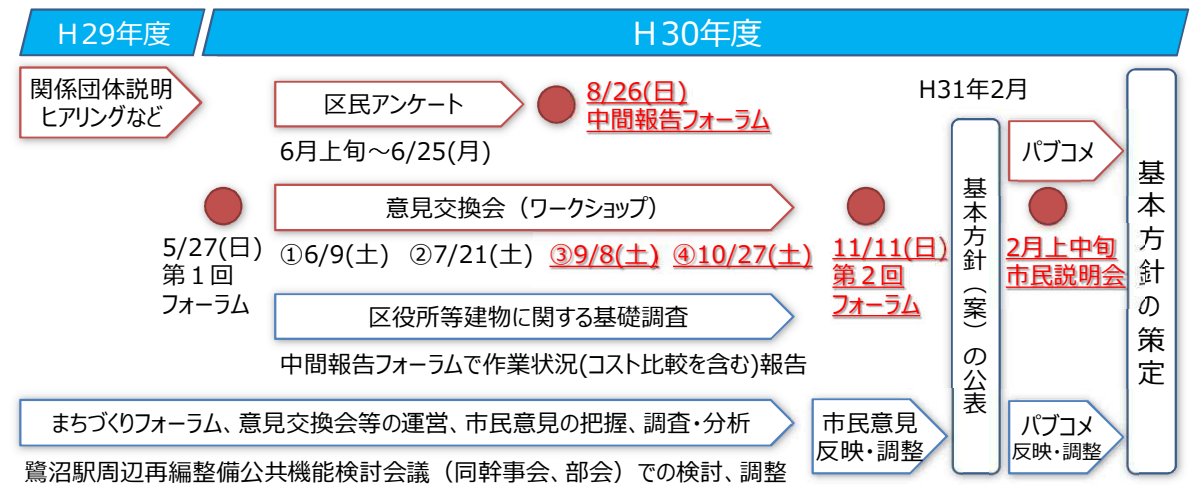
(エ) 現区役所等建物の継続利用と移転の比較*

区役所等の建物の現状確認、長寿命化整備の方針検討と課題の整理、現在の建物を継続利用した場合と移転した場合の必要概算経費の算出などについて、専門業者への委託により、外部専門家の知見を活用した基礎調査を実施する（「3 鷺沼駅周辺再編整備に伴う公共機能検討のための基礎調査」参照）。

*（ウ）、（エ）は、フォーラムや意見交換会での区民意見などを踏まえ、（ア）と並行して検討・調査を進めるが、今回の再開発に合わせて鷺沼駅前に区役所等の機能を導入しない場合は、資産マネジメントカルテに基づき、現在の建物を目標活用年数の60年以上活用していくための取組を推進することを基本とする。

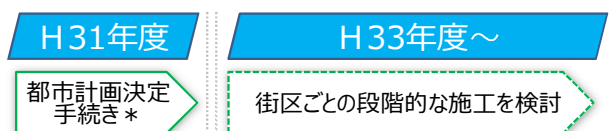
(2) 基本方針策定に向けた検討スケジュール

第1回フォーラムでの区民意見や、意見交換会への応募状況を踏まえて追加開催する中間報告フォーラム（平成30年8月26日（日））で、コスト面も含めた基礎調査の作業状況を報告するなど、途中段階でいただいた御意見も検討の進め方や論点などに反映しながら総合的に取組を推進し、平成31年2月に「（仮称）鷺沼駅周辺再編整備に伴う公共機能に関する基本方針（案）」を公表する。



(3) 準備組合が予定する再開発スケジュール

平成31年度の都市計画決定手続きを経て、平成33年度から街区ごとに段階的な施工が検討されている（今後の検討により変更になる可能性あり）。



*川崎市が行う都市計画決定手続きの中では、都市計画素案説明会や縦覧など、都市計画の内容について、市民意見を伺う場がある。